

ビッグデータに関心

ヘルスケア商機視野

挑戦！健康寿命

弘前大COIプロジェクト

企業の参画

2019年1月27日現在、ライオンや花王などの企業が弘前大学大学院医学研究科との共同研究・寄付講座を開設している。18年は特にカゴメ、クラシエホールディングス、テクノスルガ・ラボ、アツキ、ハウス食品グループ、明治安田生命保険相互会社と、日本を代表する大企業が統々と講座開設を表明し、話題を集めた。

講座は「QOL推進医学」「健康と美」「未病科学研究」など、いずれもヘルスケア分野での成長を視野に入れたもので、各企業は一樣に岩木健康増進プロジェクトのビッグデータに関心を寄せ



弘大で行われた講座開設式では、企業のトップが「岩木ビッグデータのようなもの

は「世界中どこを見てもない。弘大と一緒に解析する機会が一番の魅力」とその価値と研究成果に期待した。

健康寿命延伸が国の重要な政策課題となっている中、ヘルスケア産業の市場規模は拡大が予想され、運動、栄養管理、食、生活支援

など多くの分野でビジネスチャンスも広がる。弘大COIによるヘルスケア産業の規模は、2030年に国内だけで37兆円規模にまで成長すると言われているという。

日本の大手企業出身の和田啓二・弘大COI社会実装副統括は「(参画する企業の)目的は一つ。健康寿命延伸、健康増進、ヘルスケア。これは青森だけでなく日本、世界の課題」とし、弘大COIへの参画企業の増加について「社会の課題を解決し得るビッグデータが求心力になっている。産学官民の真ん中に『学』があるからこそオープンイノベーションとクロスイノベーションが共存できる。こういう場所はなかなかない」と解説

弘大COIという大きな枠から、参画企業間の連携も生まれた。昨年11月、通信教育大手のベネッセコーポレーションと地元企業のウェバランス、ヒロロが連携し、スタンプを集めながら大型商業施設ヒロロ内をウォーキングする健康イベント「Dr. 中路の健康道場」がスタートした。

短命県返上、健康寿命延伸に向け、健康に

関心のない人を健康づくりにどう巻き込むかという視点で、ヘルスケアと教育の分野をリンクさせてイベント化した。当日の健康講話やウォーキング講座に加え、継続のため館内のQRコードを読み込むとウォーキングした日時や距離を記録できる仕組みをつくり、健康知識向上を狙って減塩や歯の健康などについて学ぶことのできる教材も開発した。

2月9日、「楽しく体験型」をコンセプトに、ヒロロで第2弾のイベントが行われる。料理研究家の浜内千波さんのクッキング講座や企業ブース、健康グッズの「福袋」プレゼントなどの新企画で幅広い年齢層にアプローチする予定だ。

ベネッセコーポレーション事業戦略本部事業戦略部の吉田富美子プロテューサーは「弘大COIでは、ヘルスケア分野での新ビジネスを見据える。

め、子どもから大人までが分かりやすく学ぶことのできる教育プログラム開発が期待できる」とし、「実証実験が成功すれば、一つのパッケージとして全国展開の可能性もある」と、未病や病気の予防の分野での新ビジネスを見据える。

弘大COI参加企業が連携してヒロロで行った健康イベントは18年11月